



## 平成22年度学校経営計画

東京都立小石川高等学校  
東京都立小石川中等教育学校  
校長 栗原卯田子

### 1 目指す学校

#### A 教育目標 「立志」「開拓」「創作」

「自ら志を立て（立志）、自分が進む道を自ら切り拓き（開拓）、新しい文化を創り出す（創作）」

#### B 目指す学校像

- (1) 6年間一貫して体系的な教養教育を行い、生徒の自己実現を積極的に支援する学校
- (2) 高い教育水準の維持・向上に努め、豊かな教養と高い学力をもつ生徒を育成する学校
- (3) 行事や部活動を大切に、生徒が相互に磨き合い、豊かな人間力を育成する学校
- (4) 生徒の自己管理能力を高め、生徒自ら自己の個性・能力を伸長する学校
- (5) 各界のパイオニア育成を目指し、地域に信頼され、愛される「開かれた学校」

#### C 育てたい生徒像

- (1) 現状に満足せず、高い志をもち、自らの個性と能力を自ら開拓する生徒
- (2) 国際社会に生きる日本人として、豊かな感性と教養及び語学力を身につけた生徒
- (3) 自然科学など様々な場面・分野で活躍できるリーダーを目指す志の高い生徒

### 2 中期的目標と方策

#### A 目標

(1) 6年一貫の中等教育学校への改編であることから、開校から完成までの6年間（平成18年度から23年度）を中期と位置付け、目指す学校を実現するための教育計画を策定する。

(2) 平成23年3月まで、併存する母体校と一体化して、人事組織を確立し、連携・協力して「小石川教養主義」に基づく教育活動を推進する。

(3) 中学校でもない、高等学校でもない、中高一貫6年制学校「中等教育学校」として完成させ、特色を明確に打ち出して東京都が全国に誇れるパイロット校としての役割を果たす。

#### B 方策

(1) 生徒に豊かな教養と確かな学力を身に付けさせる教養教育を展開する。  
「理科好き、数学好きを育てる自然科学教育」「4技能の総合力を重視する英語教育」「新聞等を活用して読解力を高める言語文化教育」を特色ある教育活動として推進する。

(2) 中高一貫の職員室を活用し、分掌を中高一貫化するとともに、経営企画室を経営企画型事務室として活用し、中等・高校・行政の一体化をめざす。

(3) 東京都の中等教育学校として、教育課程、指導内容・方法及び教材等を全国に発信する。

(4) 文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール」（SSH）の指定を受けている小石川高校と一体となって、SSH教育研究開発計画に基づいた教育を推進し、小石川中等教育学校として活動を継続していく。

### 3 今年度の取組目標と方策

平成22年度は小石川高等学校の最後の年である。小石川の伝統を受け継いで中等教育学校を完成させるた

めに、小石川高等学校と合わせて「チーム小石川」として一体化した学校経営を行う。

## (1) 教育活動の目標と方策

教育活動の重点目標の柱は次の4つとする。

### ① 学力向上 ② 進路指導充実 ③ 特色化推進 (SSH・国際理解・言語文化) ④ 輝いてバトンタッチ

これらの教育活動においては、

①生徒の学習成績、生活実態調査、外部模試等を定点観測し、データを活用して校内で分析会を実施する。

生徒の学力の状況について課題を把握し、学力向上策を教科ごとに打ち出していく。

「生徒による授業評価」や校内授業研究協議会等を通して全教員の授業力向上を図る。

②次年度の進路指導診断を踏まえ、中高一体となって大学進学への指導充実を図る。

また、同窓会と連携して分野別模擬講義や研究室訪問を一層推進していく。

前期課程では職場体験等を通して職業観を育成し、3年間のキャリア教育の充実を図る。

### ③\*SSH

指定最終年度であるSSHの活動を評価検証し、中等教育学校の新規申請につないでいく。また、大学、研究所等との連携を一層推進する。

#### \*国際理解

今年度初めて実施する海外修学旅行（シンガポール）を成功させ、3年時のオーストラリア語学研修を踏まえた質の高いものに作り上げる。

#### \*言語文化

今年は「国民読書年」であり、4月に小石川中等教育学校が文部科学省「読書活動優秀実践校」として表彰された。また今年度も引き続き、NIE（新聞を活用した教育）推進校の指定を受けた。これらのことを契機に、読書活動の推進、新聞を活用した教育を一層推進する。

④ 閉校委員会を立ち上げ小石川高校から小石川中等教育学校への引き継ぎを検討する。

また、高校から中等への改編期の課題や1つの分掌では対応しきれない課題については、昨年に引き続き、中高一体化して解決を図る。具体的には、分掌の一体化、「チーム小石川」実践プロジェクトの推進、経営企画型事務室として機能する経営企画室の実現を通して、新しい小石川ブランドを創造する。

## (2) 重点目標と方策

### 学校経営・組織体制

目標：① 中高一体化を一層推進し、「小石川」の完成を目指す。

② 「チーム小石川」による実践プロジェクトを推進する。

③ 企画室との連携を推進する。

方策：①引き続き企画調整会議、職員会議を中高合同で開催する。教務、生活、進路は高校籍と中等籍の主任2名体制の分掌とし、総務は中高合わせて主任1名とする。新たにSSH部を設置し企画調整会議に主任を参加させて方針を学校全体で検討していく。特にTAIMSを活用して企画調整会議を議論の場とする。

②実践プロジェクトは中高に関係なく教員を配置し、必要に応じて設置する。特に、新学習指導要領への移行を検討する教育課程検討プロジェクトと、学校行事の検討、学年行事の検討を行う行事検討プロジェクトは、前年度に引き続き設置する。ICT推進プロジェクトでは、ICT計画の推進と情報管理を検討する。国際交流推進プロジェクトで、第1回海外修学旅行の実施、国内語学研修の改善に向けて取り組むとともに、国内語学研修・海外語学研・海外修学旅行の一連の行事の系統化を図る。関連して海外の学校からの訪問を受け入れ国際交流を推進する。

③実践プロジェクトには、必要に応じて経営企画室のメンバーを加えて、連携を図る。

## SSH推進

目標：SSH部の下にSSH推進プロジェクトにおいて各種企画を行い、SSH推進委員会のもとで運営する。

また、SSH運営指導委員会による指導、助言の下で5年間のSSH推進事業の成果・検証をする。

方策：①科学技術週間の取り組み事業

②研修センター実践発表

③東京都指定校合同発表会

④生徒研究発表会（全国）

⑤生徒研究発表会（本校）

⑥成果と検証

⑦中等教育学校としての新規申請

## 学習指導

目標：すべての教科・科目で基礎・基本の徹底を図り、学力向上・体力向上を目指す。

方策：各教科で到達目標を明確にし、授業第一主義を貫く。学力・体力の実態を定点で把握するとともに、到達に必要な補習を行う。また、本校生徒の実態に応じた独自の教材・指導法を開発する。

①授業第一、すべての教科で基礎・基本を徹底する授業を行い、学力の定点観測を実施する。

また、発達段階と習熟度の程度に配慮しつつ、計画的・継続的に**補充的学習**と**発展的学習**を積極的に行い、必要に応じて**補習**、**講習**を実施する。

②各科目のシラバスを作成し、本校生徒の実態に即した教材を作成するとともに、生徒による授業評価と結果に基づく校内研修を実施し、授業の改善・工夫に生かす。

③生徒に**予習・復習等の家庭における学習習慣を定着させる**とともに、読書やレポート等を課したりして、生徒が主体的に取り組む学習を充実させる。

④課題研究プロジェクトで、中等3年次の「課題研究Ⅰ」をより発展させるとともに、今年度初めて5年次に「課題研究Ⅱ」を実施し、教養教育の基づく総合的な学力の伸長を図る。

⑥読書活動推進プロジェクトで図書館、教科、学年、企画室と連携を図り読書活動を推進する。

**読書活動優秀実践校**として、生徒の読書量を維持するとともに、より質の高い読書活動を推進する。

また、図書室の書籍等を充実させるとともに、メディア学習コーナーを活用して図書室を知のセンター化する。

⑦日本学会議や紫友同窓会、PTA等の支援を得て「小石川セミナー」を開催し、自然科学をはじめとする各分野で、最先端の学問等にふれる体験・学習などの多様な教育機会を設けて、知的好奇心や志を高め、豊かで幅広い教養を身に付けさせ、生徒の個性、能力の伸長を図る。

## 進路指導

目標：最後の小石川高校生の希望する進路実現に向けて、全校体制で取り組む。

中等教育学校生に対しては、主体的な進路選択ができるよう「キャリア教育全体計画」を推進し、発達段階に即した計画的・系統的な進路指導を行う。また、次年度予定されている「進学診断」を見据えて、生徒資料のデータベース化を図る。

方策：①進路指導部と学年が連携し、生徒の自己実現を積極的に支援する進学指導を行う。

②生徒・保護者の進路希望を把握し、データベースに組み込む。

③模試を活用して結果分析を実施して生徒の学力実態把握の定点観測を実施するとともに、教科で課題を共有して、生徒が希望する進路実現を果たすための指導改善を図る。

④教科で、日々の授業研究と共に、大学入試問題を研究し、指導計画や特講の在りかたを研究する。

- ⑤進路指導部や学年だけでなく全教職員の指導力向上を図るため、校内研修を実施する。
- ⑥生徒の進路希望に応じられるよう、進路資料の整備・充実を図るとともに、二者面談や三者面談など定期的にきめ細かな進路相談・指導を行う。
- ⑦土曜日及び長期休業日の有効活用を図り、進学向け補習や講習を実施する。
- ⑧自習室の開放を充実させる。
- ⑨同窓会と連携して卒業生の大学教授の出前授業を実施するとともに、生徒に大学の研究室訪問や大学体験入学等への参加を積極的に勧める。
- ⑩職場体験、社会参加（奉仕）等の活動を通して地域社会に積極的に溶け込み、社会参加の意識を高め、進んで社会に貢献する姿勢・態度を養う。また、小学校や中学校、社会施設等と連携・協力して地域交流を深め、「魅力ある学校づくり」を推進していく。

### 生活指導

目標：生徒に基本的な生活習慣やルール、マナーを身に付けさせ、生徒の自己管理能力及び品格を高める。

- 方策：①生活指導部を中心に策定した『方針』に則って生活指導を実践する。各学年と連携し、発達段階に応じた生活指導を確立する。
- ②日常の授業を通して、挨拶の励行、時間厳守、公私のわきまえなど、自律的な生活態度・姿勢等を習慣化させ、生徒の自己管理能力を高める。
  - ③特に前期課程では、道徳の時間、学級活動等を活用し、いじめのない豊かな人間形成の場をつくるとともに、体験学習等の行事、部活動、学年集会等を通して思いやりの心や奉仕の精神を育成する。また、人権教育年間指導計画を策定し、人権尊重と心の教育を充実させる。
  - ④関係機関と連携して、交通安全、薬物乱用防止などをテーマにセーフティー教室を開催し、安全教育を推進する。

### 特別活動・部活動

目標：行事や部活動など自主活動を積極的に行わせ、リーダーシップを発揮できる心身共に健康で人間性豊かな生徒を育成する。

- 方策：①行事や委員会・部活動等において、生徒の主体的な活動を見守り、生徒の主体性と創造性を喚起、育成する。特に行事週間などの異年齢集団と交流する経験を通して、生徒が自ら考え自ら判断し、集団の中で積極的に働くリーダーの素養を育成する。
- ②行事を地域等に公開するとともに、部活動では各種大会に積極的に参加させ、他校等との交流を活発にさせる。
  - ③部活動推進プロジェクトで、中高一貫校としての部活動のあり方を引き続き検討する。

### 健康づくり

目標：心身共に健康な生徒を育成する。

- 方策：①学校保健計画を作成し、生徒の心身の健康と体力の維持・向上を図る。
- ②学習環境の整備と美化に努め、健康の自己管理に努めさせる。
  - ③日々、スクールカウンセラー（SC）と家庭と学校が連携し、中高の発達段階に応じた課題に学校全体で取り組むとともに、個々の課題についてSCを活用して解決策を図っていく。
  - ④給食運営委員会を通して前期課程の給食運営を検討するとともに、給食を通じた食育を推進する。

## 募集・広報 地域交流

目標：「地域が誇りとする学校」として小石川高等学校、小石川中等教育学校の広報に努める。また、小学生対象の体験授業を理科で充実させる。中等教育学校の入学選抜の応募倍率を維持する。

方策：総務部が中心となって本校教育の特色とよさを理解してもらう行事を企画運営し、中高一体の全校体制で実施する。

- ・校内で実施する学校説明会、適性問題解説会を総務部で企画立案し、学校全体で実施する。
- ・外部の説明会に対しては個別相談会を全体で分担していく。
- ・ホームページを充実させて積極的に情報を発信し、本校教育の特色とよさを理解してもらう。
- ・公開学習講座や学校開放事業を推進するとともに、グラウンド等の施設を開放する。
- ・東京都総合防災訓練に協力し地域との連携強化を図る。4年生は社会参加（奉仕）として積極的に参加する。

### <数値目標>

#### ① 学力向上

- ・本校の補習・講習体制についての生徒の満足度（肯定的評価の割合） **90%**

#### ② 進路指導の充実

- ・大学入試センター試験の実質受験率 高校3年在籍者の**85%**以上  
但し、センター試験実質受験人数は、データリサーチの参加人数でカウントする。（前年度目標再掲）
- ・国公立大学現役合格者 センター試験受験者の**25%**以上、具体的には**34名**以上（前年度目標再掲）

#### ③ 特色化推進

### <SSH>

- ・前期課程1，2年の理科で実験を扱う授業 **7割**以上
- ・理科好き・数学好きを育てる教材開発を通して「好き」な方向に変化したと答える生徒を**35%**以上にする。

### <国際理解>

- ・学年末までに 中等2年生で 英検 3級以上取得 **100%** （前年度目標再掲）
- ・学年末までに 中等3年生で 英検準2級以上取得 **90%**以上（前年度目標再掲）
- ・学年末までに 中等4年生で 英検 2級以上取得 **50%**以上（前年度目標80%・下方修正）

### <言語文化>

- ・前期課程の生徒1人あたりの学校図書館の貸し出し数 年間**20冊**以上

#### ④募集対策

- ・学校説明会・授業公開・体験授業等の来校者数目標**7000名**（前年度目標6000名・上方修正）
- ・外部学校説明会等（含個別）の来場者数目標 **3000名**（前年度目標4000名・下方修正）
- ・中等教育学校の一般枠募集の応募人数 **1000名**（前年度目標応募倍率8倍・指標修正）